

科目区分： 専門教育科目 家政教育（受講生数 10 名）
授業科目： 生活科学概論

オンライン授業での工夫

家政教育講座・竹下浩子

1. 授業の概要

(1) シラバスに掲げられた授業の目的, 到達目標, 関連するディプロマ・ポリシー (DP)

【目的】

生活を科学的に解明し, 科学を生活に生かすことを目的とした生活科学の概要を認識する。また, 生活者とそれを取り巻く環境との相互関係を理解し, 生活者として持続可能な社会を築く価値観を習得する。

【授業の到達目標】

- 1) 生活科学の学問的背景を理解し, 生活者の視点から生活科学を学習する意義を説明できる。
- 2) 現代の生活問題について, 原因と問題解決について考えることができる。
- 3) これからの時代における持続可能な社会発展と心豊かな生活のあり方について論述できる。

【ディプロマ・ポリシー】

教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について, 専門的な知見をもとに, その対応方策を理論に基づいて総合的に考え, その過程や結果を適切に表現することができる。(思考・判断・表現)

【愛媛大学学生として期待される能力】

- ・必要な情報を収集・整理できる
- ・個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる。
- ・様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる

(2) 授業の内容の概要

毎回の授業は, 原則的に教科書の章ごとのテーマに沿って進めていくが, 生活に関する諸事象をより具体的にするため, 今日的な話題や身近な問題にも触れる。授業では, グループ討論, 討議等の参加型アクション志向学習を導入し, これからの時代を積極的に生きる生活者としての価値観と態度を養う。

1. ガイダンス

生活科学とは何かについて考える。

2. 生活における今日的課題

生活時間から, 自分自身の生活を見直す。

3. 人間発達と社会生活

出生前診断の現実から人として生きることの尊厳について議論する。

4. 家族と家庭生活

百寿者の生活から高齢社会について考える。

5. これからの社会と暮らし

誰ひとり取り残さない社会について考える。

6. 地球的規模の環境問題

SDGs とは何かについて理解する。

7. 食生活と環境

ファストフードの DVD を視聴し, 健康と社会との関係性について考える。

8. 衣生活と環境

ファストファッションの DVD を視聴し, 現代の衣の問題について考える。

9. 住生活と環境

建築家が考える子どもの遊び場から, 教育空間を創造する。

10. グローバル化と情報化

情報リテラシーについて考える。

11. 地域

防災、減災、まちづくりについてスマホを使って地図を作る。

12. まちづくり

前回の地図づくりの授業を活用して, みんなのための公園づくりについて話し合った。

13. 消費者市民社会と消費者教育

大量生産, 大量消費による問題を考える。

14. 持続可能な社会の構築

SDGs1 の 17 目標について考える。

15. まとめ

(3) 授業の方法の工夫

・受講生は, 1 回生であったため, オンライン授業ではあったが, なるべく全員で授業を行う雰囲気づくりのため, ビデオでの顔出しを依頼し, 全員が毎回答えてくれた。

・ブレイクアウトルームを活用し, グループワークを積極的に取り入れた。

・スマートホンを活用して, 課外で大学近くを一人で周り, まちあるきをするなど, 体験的な課題を取り入れた。

・個人の発言する機会を多く取り, 全員で共有した。

2. 授業評価・授業研究 _

(1) 学部DPとの対応 _

受講生9名から回答があり、下記のような結果であった。本授業のDPであるDP1が対応していた(とてもそう思う+ある程度そう思う)とする学生は全員であった。学部DPに対応した授業内容であったといえる。また、その他のDPに関しても全員の学生が(とてもそう思う+ある程度そう思う)と回答していた。

DP1 知識・理解 _

この授業では教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。

とてもそう思う 7人

ある程度そう思う 2人

あまりそう思わない 0人

DPと無関係 0人

DP2 技能

この授業では教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。

とてもそう思う 5人

ある程度そう思う 4人

あまりそう思わない 0人

DPと無関係 0人

DP3 思考・判断・表現

この授業を通して、教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。

とてもそう思う 3人

ある程度そう思う 6人

あまりそう思わない 0人

DPと無関係 0人

DP4 興味・関心・意欲、態度

教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。

とてもそう思う 8人

ある程度そう思う 1人

あまりそう思わない 0人

DPと無関係 0人

この授業で出された課題や予習・復習のために、授業時間外に費やした学習時間は平均で一週間に1時間から3時間程度でそれほど差がなかった。一方で、この授業を受けて、自分で自発的に読んだ本や論文の数は、半数以上が0冊であったが、最も多い学生で5冊と差があった。

(2) 最終レポートによる学生の学び

生活科学概論で扱ったテーマで最も印象に残っているものは、生活時間と食生活と環境についてであった。生活時間を選んだ理由としては、「自分が実際に生活している時間簿を題材として授業を行いとても興味深かった。」などがあった。また、食生活と環境を選んだ理由としては、「私たちが普段からよく利用しているファストフードについて取り上げた授業だったため、ファストフードが体に与える影響について改めて考えるきっかけになり、とても身近で興味深いテーマであると感じた。」などがあった。

生活科学概論を受講しての感想では、グループワークを取り入れたことについて全員が高評価だった。「全学期の生活科学概論の授業を通して私はすごいと感じた。新型コロナウイルスの影響で最初から最後までzoomでのオンライン授業になってしまい、はじめは、対面の方が良かったという思いで気持ちよく授業が受けられていなかった。そのうえ本来対面で行うはずの授業をオンラインでできるのか、グループワークはどうするのだろうかという不安を持っていた。しかし、動画や資料を活用し、わかりやすく楽しい授業で不安を拭い去ってくれた。また、グループワークもズームの機能を使って問題なくできるので不安なく取り組むことができた。zoomでの授業は自宅からでも受けられるので学校に行く時間が短縮され他のことにあてられる利点もあるのでオンライン授業も悪くないと感じた。このような状況の中でも快適に授業を行えるようにする対応力がすごいと感じた。授業を受ける前の私の生活科学概論に対するイメージは身の回りのことを学ぶものといったように具体的には何も浮かばなかった。しかし、授業を受けてみて学びの範囲が広いと感じた。少子高齢問題や健康問題、生き方や防災マップなど広い範囲の問題を掘り下げ学習した。愛媛県に来て3ヶ月経過したが自粛期間もあり、外出をする機会があまりなかったので松山市の土地鑑が全くなかった。しかし、防災マップやエコマークの調査で普段行かないところまで散策できたので楽しみながら学習、そして道を覚えられた。」(とある学生の感想)新しい生活が予想もつかない形でスタートした新入生の授業であったため、こちらもどのような授業方法にするか毎回頭を悩ませていた。しかし、一人一人の置かれている環境と刻一刻と変わるコロナ禍の社会の現状とを対比させることで、対面式のこれまでの授業よりよりリアルな日常生活に目を向けた授業が可能となった。